

昭和の地名をたずねて4

糸井 往古、一人の長者の

母の供養に関わるか…!

糸井は椽久保地区の北方、赤城山の北西山麓にある河岸段丘上に開かれた集落。地名の由来は、往古、一人の長者が母の供養のために阿弥陀堂を建立した際に、川向こうの大墓坂、今の白清水(沼田市上沼須地内)にある鉱泉から束ねた糸で水を取ったことによると「利根郡誌」に記されている。

幾多の時代の変遷の中で、初めは前橋藩領、明和4年(二七六七)幕府領、文化9年(一八二二)分郷して三分の二は幕府領、三分の一は旗本長山氏領となった。うち幕府領は慶応3年(一八六七)前橋藩領となった。「天保郷帳」によると、糸井村の石高は一六〇八石六斗一升あったという。明治に入り、前橋県、熊谷県を経て現在の群馬県となった。

江戸末期に分村された長者久保村と明治7年に合併。同11年に郡区長村編制法が交付され北勢多郡に所属。同22年には貝野瀬村と合併し糸之瀬村の大字となった。鎮守の森には小高神社がある。

明治10年頃の戸数247戸、男484

人、女49人ほど、明治24年では戸数248戸、男656人、女668人となっている。

明治11年、各郡に郡役所を置くことが示された。当時は、名主の自宅や寺院を役場に充てることが多かったが、同23年、糸井地区に役場庁舎が新築された。その後、移転や用途変更されたりしたが、令和に取り壊された。

今日の糸井エリアでは新調された村役場をはじめ、公民館、保健福祉センター、昭和の湯、屋内運動場などの施設や各種事業所の進出により、村の中心街としての役割を担い、活気を呈している。



現在の役場新庁舎

参考文献 利根沼田歴史民族辞典等

昭和村ボランティアガイドの会

会長 倉澤 俊雄



地域包括支援センターだより

## エンディングノートサミットのご案内

### エンディングノートとは？

人生の最期に備えて、自分自身の希望を書き留めるノートのことです。

今回のサミットでは普段あまり話を聞く機会のない納棺師、グリーフケア・アドバイザーが登壇します。また、各地域の取り組みとして利根沼田地区で使われている「ほほえみノート」も紹介されます。ぜひご参加ください。



### イベント概要

開催日時：令和6年1月13日(土)  
14:00～16:30

開催方法：会場 + YouTube ライブ配信

定員：240名 (ライブ配信は定員なし)

会場：美喜仁桐生文化会館スカイホール  
(群馬県桐生市織姫町2-5)

申込方法：申込・ライブ配信の視聴は特設ページをご確認ください。

申込締切：令和6年1月9日(火)



サミット特設ページ

<https://renkei-kiryu.org/endingnotesummit/>



問合せ 地域包括支援センター ☎ 20-1126

